

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

📌 宮崎県第48週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (48週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 3 例。3 類感染症：報告なし。
4 類感染症：つつが虫病 8 例。5 類感染症：梅毒 2 例、百日咳 4 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	女	肺結核	発熱
			70歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
			80歳代	女	疑似症患者	痰
4類	つつが虫病	宮崎市	80歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
		都城	50歳代	女	—	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
			70歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
		小林	50歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹、倦怠感
			50歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
			80歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹
		高鍋	50歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
		中央	70歳代	女	—	頭痛、発熱、刺し口
5類	梅毒	宮崎市	50歳代	男	早期顕症梅毒(Ⅱ期)	梅毒性バラ疹
		日向	20歳代	女	早期顕症梅毒(Ⅱ期)	硬性下疳(性器)、 鼠径部リンパ節腫脹(無痛性)、 梅毒性バラ疹
	百日咳	宮崎市	5~9歳	女	—	持続する咳
		日南	5~9歳	女	—	持続する咳
		高鍋	80歳代	男	—	軽度咳嗽
80歳代	女		—	持続する咳		

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は907人(定点当たり23.6)で、前週比130%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

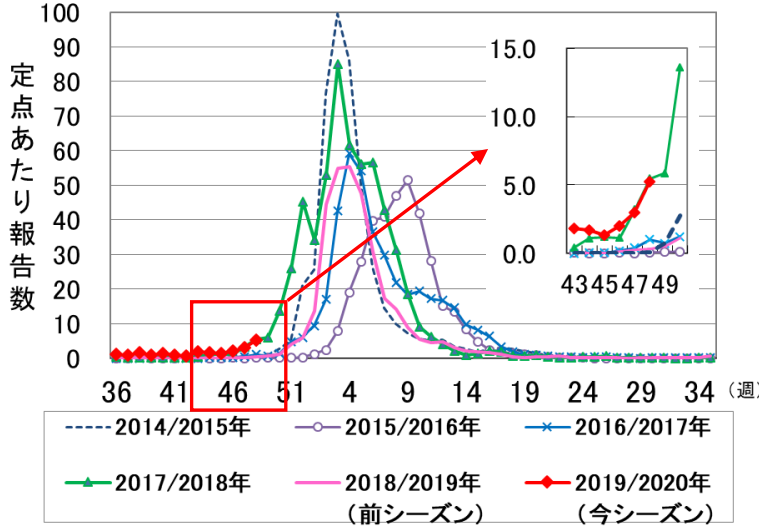
報告数は309人(5.2)で、前週比176%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値*(1.3)の約4.2倍である。都城(9.6)、延岡(8.9)、高鍋(6.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では5~9歳が全体の約半数を占めた。

【感染性胃腸炎】

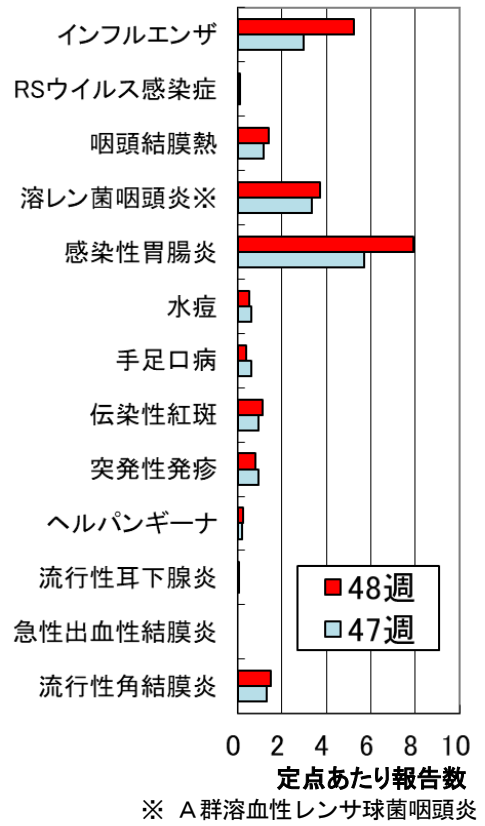
報告数は285人(7.9)で、前週比138%と増加したが、例年同時期の定点当たり平均値*(12.9)の約0.6倍である。日向(15.3)、都城(12.0)、延岡(10.0)保健所からの報告が多く、年齢群別では1~3歳が全体の約半数を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

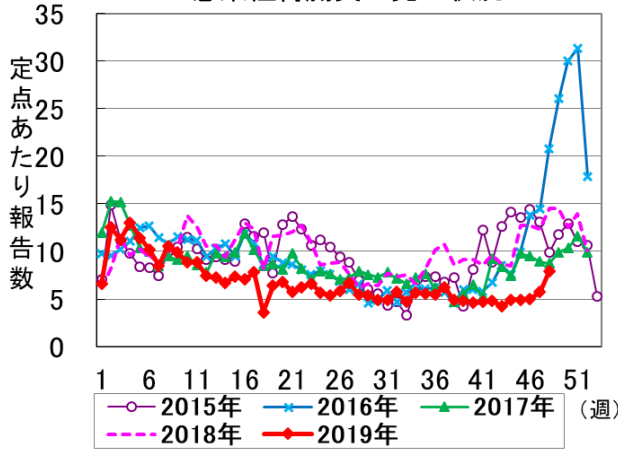
インフルエンザ 発生状況



《前週との比較》



感染性胃腸炎 発生状況



★基幹定点からの報告★

- マイコプラズマ肺炎：日向保健所から1例報告があり、5～9歳であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：報告数は3例で日向保健所からの報告であった。
 年齢は0～4歳が1例、5～9歳が2例、病原体の群別は不明である。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	伝染性紅斑(2.2)
延岡	伝染性紅斑(3.3)
日南	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(10.0)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(10.0)、水痘(1.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)

＊流行注意報レベル基準値＊

- ・水痘(1.0)

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和元年12月3日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2019.11.01	持続する咳、夜間の咳込み、スタックート、嘔吐、白血球増多	咽頭ぬぐい液	2019.11.08
<i>N.meningitidis</i> (髄膜炎菌)	30歳代	男	2019.10.28	排尿時痛、かゆみ	尿	2019.11.20
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2019.11.05	百日咳疑い、咳	咽頭ぬぐい液	2019.11.21
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2019.11.08	百日咳疑(家族調査)、咳	咽頭ぬぐい液	2019.11.22

0～4歳の男児3名から、*Bordetella pertussis*（百日咳菌）が遺伝子検査により検出された。遺伝子検査で陽性となった3名のうち、2名は菌の分離ができなかった。菌の分離は検査のGold Standardであるが、菌量が多いとされる乳幼児からの菌分離率も一般的に60%以下と高くない。菌の分離を行う際は、症状出現後速やかに脂肪酸を含まないスワブを用いて後鼻腔から検体を採取することが望ましい。抗菌薬投与後は菌の分離は困難で遺伝子検出も難しくなるため、百日咳が疑われる場合は抗菌薬投与前に検体を採取し検査を行うことが発生動向の正確な把握につながると考えられる。また、2018年1月1日から適切な検査診断で百日咳と診断された症例は年齢を問わず全数把握疾患として報告することとなっている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
コクサッキーウイルスB3型	0～4歳	女	2019.10.21	無菌性髄膜炎疑い、敗血症疑い、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2019.11.20
ライノウイルス	0～4歳	男	2019.11.02	気管支炎	肺便 咽頭ぬぐい液	2019.11.26

○無菌性髄膜炎疑いの乳児からコクサッキーウイルスB3型が分離された。全国の無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルスはエコーウイルス30型が最も多く、次いでコクサッキーウイルスB5型、B3型が多くなっている。当所では2019年4月から11月までにコクサッキーウイルスB5型が4件、パレコウイルス3型が2件、コクサッキーウイルスB4型、B3型がそれぞれ1件分離・検出されている。無菌性髄膜炎は夏季から秋季にかけて流行がみられるが、流行するウイルスも様々であることから今後の動向に注意する必要がある。

🇯🇵 全国 2019 年第 47 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第47週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	317例				
3類感染症	細菌性赤痢	9例	腸管出血性大腸菌感染症	72例		
4類感染症	E型肝炎	5例	A型肝炎	7例	エキノкокクス症	2例
	Q熱	1例	つつが虫病	24例	デング熱	7例
	日本紅斑熱	6例	マラリア	2例	レジオネラ症	26例
5類感染症	アメーバ赤痢	7例	ウイルス性肝炎	3例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	26例
	急性弛緩性麻痺	4例	急性脳炎	12例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8例	後天性免疫不全症候群	15例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	56例	水痘（入院例）	10例
	梅毒	77例	播種性クリプトコックス症	4例	破傷風	1例
	百日咳	213例	風しん	1例	麻しん	5例

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比109%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと咽頭結膜熱で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症と手足口病であった。

インフルエンザの報告数は15,390人(3.1)で前週比169%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値*(1.1)の約2.9倍である。北海道(10.1)、青森県(8.1)、石川県(6.0)からの報告が多く、年齢群別では10歳未満が全体の約6割を占めている。

手足口病の報告数は3,353人(1.1)で前週比91%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値*(0.72)の約1.5倍である。佐賀県(3.8)、新潟県(3.4)、青森県(3.0)からの報告が多く、年齢群別では1～2歳が全体の約半数を占めている。

* 過去5年間の当該週、前週後週（計15週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2019年 第48週(11月25日～12月01日)

疾病名		第47週	第48週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	175	309	59	96	62	12	10	36	8	25	1
	定点当り	2.97	5.24	3.69	9.60	8.86	2.40	2.00	6.00	4.00	4.17	0.50
RSウイルス 感染症	報告数	4	4		2	1	1					
	定点当り	0.11	0.11	0.00	0.33	0.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	42	50	29	9	3	2	2		2	3	
	定点当り	1.17	1.39	2.90	1.50	0.75	0.67	0.67	0.00	2.00	0.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	120	134	39	23	9	30	8	7		8	10
	定点当り	3.33	3.72	3.90	3.83	2.25	10.00	2.67	1.75	0.00	2.00	10.00
感染性胃腸炎	報告数	206	285	29	72	40	23	19	31	3	61	7
	定点当り	5.72	7.92	2.90	12.00	10.00	7.67	6.33	7.75	3.00	15.25	7.00
水痘	報告数	23	19	9	4	3	1				1	1
	定点当り	0.64	0.53	0.90	0.67	0.75	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	1.00
手足口病	報告数	23	14	7		4	2					1
	定点当り	0.64	0.39	0.70	0.00	1.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	33	40	4	13	13	1	5	3			1
	定点当り	0.92	1.11	0.40	2.17	3.25	0.33	1.67	0.75	0.00	0.00	1.00
突発性発しん	報告数	33	29	9	6	3	2	3			4	2
	定点当り	0.92	0.81	0.90	1.00	0.75	0.67	1.00	0.00	0.00	1.00	2.00
ヘルパンギーナ	報告数	8	9	3	4	1		1				
	定点当り	0.22	0.25	0.30	0.67	0.25	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	3	1								1	
	定点当り	0.08	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	8	9	4	4	1						
	定点当り	1.33	1.50	1.33	2.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	1	1								1	
	定点当り	0.14	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		3								3	
	定点当り	0.00	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		3.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2019年第1週～48週)

2類感染症	結核	184例(3)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	41例	腸チフス	1例
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	22例(8)
	日本紅斑熱	8例	レジオネラ症	8例
5類感染症	アメーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	4例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	4例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10例	後天性免疫不全症候群	5例
	侵襲性肺炎球菌感染症	11例	水痘(入院例)	1例
	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	2例
	風しん	1例	麻しん	1例
			重症熱性血小板減少症候群	8例
			カルバペネム耐性腸内細菌感染症	13例
			クリプトスポリジウム症	1例
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例
			梅毒	20例(2)
			百日咳	299例(4)

()内は今週届出分、再掲